

### 南富良野町「ふるさとを詠った歌碑」

南富良野町における歌人は、前刊『南富良野町史』に詳細が搭載されているが、歌碑として存在しているものに次の5碑がある。

#### 山名薫人歌碑

金山ダム展望園地に、昭和52年6月17日歌集『山峡の湖』を発行し、昭和54年9月3日に碑が建立された「山名薫人歌碑」。



山名薫人歌碑

「この谷の 底ひに冷ゆる 陽の色の  
青白くして こぼし咲くなり」

#### 金山ダム記念碑 更科源蔵

昭和43年9月16日にかなやま湖畔鹿越園地に金山ダム記念碑として建立され、更科源蔵



金山ダム記念碑

(弟子屈町生まれで、戦前戦後を通じ一貫して生活者の視点で詩や散文を書き続け、また、アイヌ文化研究、郷土史研究でも足跡を残している)が詠った「水色のふるさと」。

水色のふるさと  
ここにふるさとがあった  
肩を組んで毎日通った道があった  
たんぼぼのさく道はポプラの陰を通り

たのしいざわめきの満ちた学校と  
遠い思い出とつながっている  
今ひたひたと小波よせるこの湖の底に

朝つゆにぬれた小鳥の巣と  
家畜たちの身ぶるいと虫のすだきと  
豆の花ねむる夕ぐれがあり  
幼い夢と希望と口笛と  
母のともしびがあった  
今は銀色の魚の泳ぐこの水底に

光のみちた 水は今  
思い出と四季をうつして静かである  
水よ 古里を抱いてはなさぬ水よ  
新しくはじまる大地の歴史の上  
にうらおいとなり花となり灯となれよ  
ふるさとの水よ 鹿越の湖よ

#### 南富良野中学校校歌制定記念歌碑 山名康郎

南富良野中学校校歌は、南富良野町金山で生まれ各方面で活躍している札幌市在住の歌人山名康郎に依頼して作成されたが、これを記念してかなやま湖畔の鹿越園地に平成16年10月に「南富良野中学校校歌制定記念歌碑」を自費で建立している。



南富良野中学校校歌制定記念歌碑

濃緑の  
原生樹林と  
空映し  
藍さながらの  
山のみづうみ